

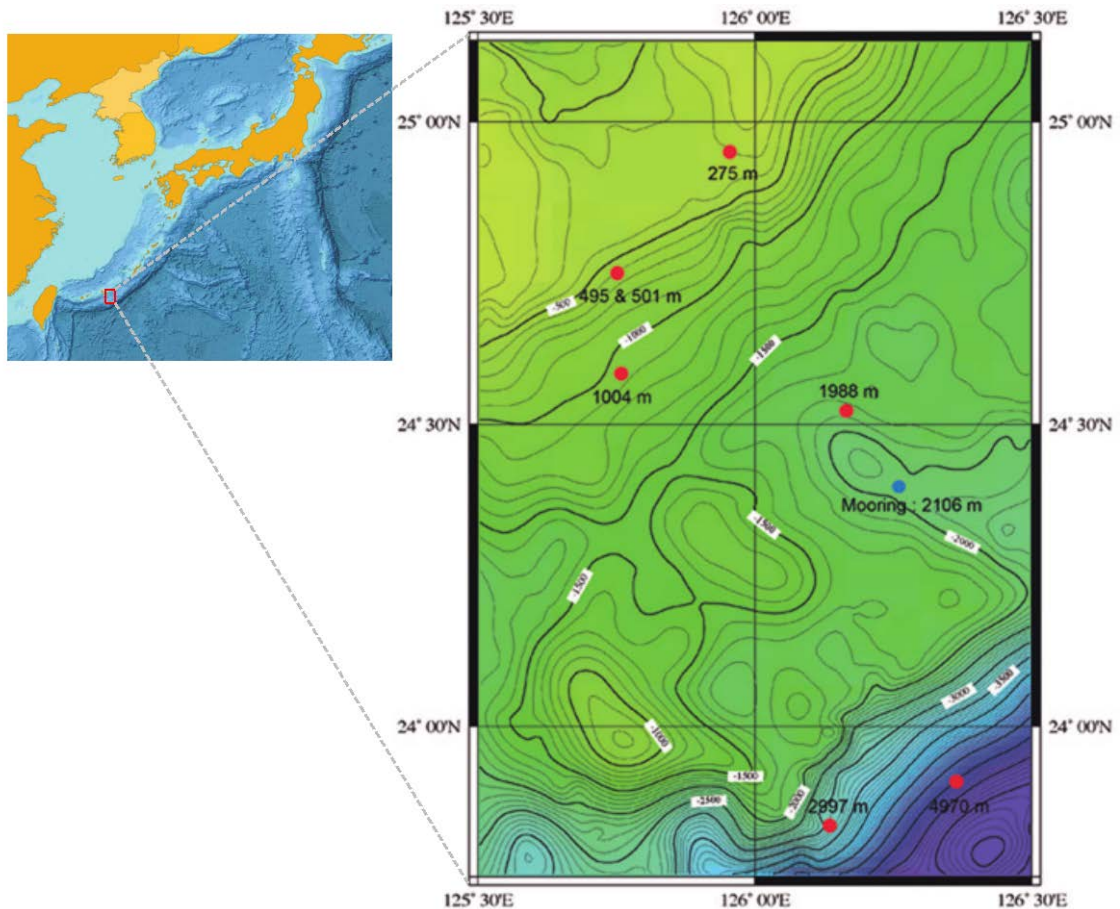
提出日：2012年3月19日

クルーズサマリー

1. 航海情報

- 航海番号：KR12-01
- 船舶名：「かいらい」 / 「かいこう 7000II」
- 航海名称：南西諸島海溝における「かいこう 7000II」調査潜航
- 首席研究者 [所属機関名]： 藤原義弘 [海洋研究開発機構]
- 課題代表研究者 [所属機関]： Pradillon, Florence [海洋研究開発機構]
白山義久 [海洋研究開発機構]
- 研究課題名： 「深海化学合成生態系の出現に有機物基質が果たす役割の解明」 (FP)
「深海域における沈木生物群集の食物網構造の解明」 (YS)
- 航海期間： 2012年1月7日(土)~2012年1月21日(土)
- 出港地~寄港地~帰港地の情報：晴海埠頭(東京) → 那覇港(沖縄)
- 調査海域名：南西諸島海溝
- 調査マップ

潜航地点を●, 係留系設置点を●で示した。本航海では水深275m地点には潜航していない。



2. 実施内容

● 調査概要

南西諸島海溝に沈設中の生物基質（動植物遺骸）に出現する生物群集について、その多様性と構成種の遷移、食物網、出現種の分子系統学的な相関を明らかにし、水深や基質の違いがそれらに与える影響を解明するとともに、深海域において生物基質が果たす役割を評価することを目的に「かいこう 7000II」による潜航調査を実施した。また動物遺骸に出現する生物の分散プロセスを明らかにするために2010年に海底設置した係留系を回収した。

本調査では南西諸島海溝の5水深（500m, 1,001m, 1,988m, 2,997m, 4,964m）において、9潜航を実施した。500m海域ではこれまでにない形態的特徴を有するホネクイハナムシ類や本邦2例目となる子実体を形成する深海産菌類を採集したほか、タイムラプスビデオカメラを用いて鯨骨生態系の腐肉食者である大型のサメ類を観察した。1,000mから4,964mにかけて設置した生物基質からは還元環境に特徴的な生物相はほとんど観察できなかった。4,964m海域からは新種の可能性のあるシロウリガイ類や大型有孔虫類を採集した。係留系からは動物遺骸に出現する生物の分散プロセスの解明につながる証拠を得ることはできなかった。